

うるし

vol. 1

6.29-30

sat sun

10:00-16:30

japanese lacquerware

滴生舎
安比塗漆器工房
丸三漆器
及川漆工房
urushi Lakka
高橋勇介
特別展示【浄法寺塗 漆絵皿】



いわてのてしごと、くらしにもっと。



IWATE TRADITIONAL CRAFTS Year 2019

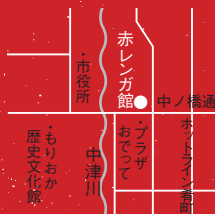


入場無料

作品はお買い求め
いただけます

会場 岩手銀行赤レンガ館

盛岡市中ノ橋通1-2-20
TEL.019-622-1236



主催 岩手銀行

後援 岩手県、盛岡市、一戸町、二戸市、八幡平市、西和賀町、
奥州市、一関市、岩手朝日テレビ

事務局 LLP まちの編集室 info@tekuri.net

KOUGEI EXPO IN IWATE

2019年 第36回 伝統的工芸品月間
国民会議全国大会 岩手大会 関連イベント

すず竹細工／いちのへ手技工芸館

平孝商店

クルミ樹皮／SAVE IWATE (実演あり)

Kagocco Pepin

アケビ 蔓／西和賀農家高齢者創作館

雫石民芸社・佐々木製籠店

橋本晶子・Holz Furniture and Interior

特別展示【全国の箕(桶正コレクション)】



7.27-28

sat sun

10:00-16:30

vol. 2

かご

basket

うるし 6.29-30 sun
10:00-16:30

オープニング
トーク

6.29 sat 11:00-

青柳ブラザーズに聞く！
ハレとケの漆器のはなし (仮)

スピーカー／

青柳真さん (丸三漆器 代表) &
青柳匠郎さん (丸三漆器 塗師)



日常のなかで使い継ぐ、岩手の道具たち、
生活の「手」を感じる工芸展です。

土地の素材を使い、土地の人によって作られたモノは、用途を持って使い続けることと研ぎ澄まされた美しさを携えます。2019年、岩手銀行は県内に継承される伝統工芸品を、広く内外の方々知っていただく企画展を4つのテーマで開催します。時代の節目だからこそ、継ぐ価値を、一緒に考えるために。

人と文化のクロスポイント

【岩手銀行赤レンガ館】

盛岡出身の葛西萬治と、辰野金吾の設計による国の重要文化財。1911年から100年余りに渡って銀行として使われたのち、2016年より現在の形の施設となり、様々な催しを開催。



vol. 2

かご 7.27-28 sun
10:00-16:30



いのへ手技工芸館 (一戸町)

目玉は、同町鳥越地区に伝わる、まず竹を使った竹細工。かごのほか、ざる、おしぼり置きなどの小物、ヤマブドウ蔓の手提げかごやサルナシの箕なども揃います。



実演あり

SAVE IWATE (盛岡市)

東日本大震災後、内陸に避難してきた男性たちが中心となって制作している。クルミの樹皮のかごが並びます。しっかり丁寧に編み込まれたかごは、使い勝手抜群。



Kagocco Pepin (遠野市)

素材であるクルミの樹皮の収穫から制作まで、一貫して一人の手がける女性作家のかごは、曲線的なフォルムが特徴。シックななかにもやさしい雰囲気が漂います。



農家高齢者創作館 (西和賀町)

農家のお母さんたちが、農閑期に採取したアケビ蔓でかごなどを制作しています。地面を這う蔓を使うので、商品はどれも丈夫で長持ち。使うほどに光沢も出ます。

平孝商店 (一戸町)

高品質・国産にこだわった生活道具を扱い、地域住民に長年愛されてきた「町の荒物屋」さん。竹細工の買い物かごやざる、使い勝手の良い手編み箸が多数あります。

Holz Furniture and interior (盛岡市)

人気の家具店からは、竹製の「横田かご」が登場。かつて宮古市の市場や漁港の人が魚の運搬に使っていたもので、現代では、雑誌や服の収納などに重宝します。

雫石民芸社 (盛岡市)

クルミ (自家栽培) やヤマブドウの樹皮を使い、その使い方や編み方で様々な柄に仕上げるかごが人気。今回は展示のみですが、その技を、作品を通してご覧ください。

橋本晶子 (盛岡市)

漁師の傍ら、竹細工を生業とする祖父の姿を見て育った橋本さん。2007年から一戸町で竹細工を学び、2014年に作家活動開始。県内外の工芸展に出品しています。

佐々木製籠店 (一戸町)

千厩町に3代続く竹細工店。真竹の強度を生かしかごやざるなど実用性の高い道具を作っています。基本はオーダー製で、それぞれの用途にあった仕様に仕上げます。



特別展示
桶正コレクション

全国の箕 (み)

宮古市タイマグラの桶職人「南部桶正」奥畑正宏氏のコレクションを展示します。箕は穀類をあおってふるい、ゴミなどを取り除く農具。岩手県内をはじめ、全国から集めた選りすぐりの箕をご覧ください。

奥畑氏在庫／27日 13:00-16:30

漆器を
使ってみよう 甘酒お振る舞い

※無くなり次第終了



滴生舎 (二戸市)

国産漆の産地・二戸市浄法寺町にあり、その貴重な漆を使用。あえて磨かずに仕上げており、使うほどに美しいツヤが楽しめます。様々な作り手の商品も勢揃い。



安比塗漆器工房 (八幡平市)

シンプルで飽きがこないデザインは、日常使いにぴったり。丈夫な縦挽きの国産木地と自社精製の県産漆を使い、真面目ながらも自由な漆器づくりに挑んでいます。



丸三漆器 (一関市)

金や色漆を使った文様が特徴の秀衡塗。その伝統を受け継ぐ一方、ガラスに漆絵を施した「Hidehira」、ふだん使いに特化した「FUDAN」などの漆器も手がけています。



及川漆工房 (奥州市)

工房主の及川守男さんは、旧衣川村増沢集落で誕生した「増沢塗」の最後の職人。復元した一汁一菜のための3つの組み碗「秀衡碗」は、見どころの一つです。



高橋勇介 (盛岡市)

昭和20年代から岩手県内漆芸の技術指導、漆工研究、漆産振興に深く携わり、自身も漆芸家として活動。酒杯百器制作に取り組んでいます。岩手工芸美術協会顧問。



urushi Lakka (盛岡市)

各種工芸展で受賞歴多数の漆芸家・町田俊一さんの工房。厳選した木地や塗り重ねて、「長く使える漆器」を制作しています。磁器やガラスに塗装した漆器も必見。

特別展示
浄法寺塗 絵皿

江戸末期から戦後にかけて盛んに作られた「漆絵皿」。庶民が日用器として使ったもので、漆で描いた桃やイチゴなどのモチーフは素朴な味わいがあります。二戸市に保管される数百枚の漆絵皿から、今回は30枚を展示します。



赤レンガ伝統工芸館 今後の予定／

vol.3 南部鉄器 10月11-13日、vol.4 ホームスパン 11月2-3日